

令和2年度 自己評価・学校関係者評価書

令和3年 3月19日

静岡聖光幼稚園

1 幼稚園の教育目標

- 自然を素直に受け止め、自然と向き合う感性や意欲を育てよう
- 人と共に生きることの喜びを味わうことのできる社会性を育てよう
- 社会の中で自尊心を持って、自分で生活を営む生きる力を育もう

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

- 1 園内の自然を取り入れた遊びや活動の工夫をしよう。
- 2 異年齢のかかわりの充実を図るための工夫をしよう。
- 3 子ども主体の製作活動について考えよう。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理 由	関係者評価
①保育の計画性	A	コロナ禍で中止や変更を余儀なくされた行事や活動が多い1年だった。その中でも、各教職員が意見を持ち寄り、話し合っ て対応を心掛けた。	○
②保育のあり方 幼児への対応	A	カウンセラーの先生より、定期的に研修を受け、より個々に細 やかな対応を心掛けることができた。	○
③教師として資質 能力、適正等	A	各教職員が、それぞれの立場で能力を発揮し、前向きな姿勢で 取り組むことができた。	○
④保護者への対応	B	動画配信を行えたが、保護者が来園して子どもに触れ合う機会 は少なく、対応の工夫がもう少しあっても良かった。	△
⑤地域の自然や地 域との関わり	B	時期をずらしたり、園内での自然を活用したりすることはでき たが、園外での活動は限られた。	△
⑥研修と研究	B	リモート等で個々のスキルアップに留まり、園全体での話し合 いは、主にコロナ禍による行事、活動の内容となってしまうこ とが多かった。	△
⑦環境整備、 安全点検	B	アルコール消毒、アクリル板等、感染予防対策は順次行えた面 もあった。設備、遊具など経年劣化している部分も見られ、更 なる点検、改善を要する。	△

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

年当初よりコロナ禍による影響が大きく、課題への取り組みが難しい面もあった。その中でも、様々な対応策などを話し合い、また、子ども達のために園内でできる工夫や学年毎の工夫を、教職員間で共有して実施していくことはできた。

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
新しい生活様式を考え、工夫しよう。	・感染症予防対策の見直し。 ・できる範囲で異年齢とのかかわりの工夫を検討、実施する。 ・より子どもたちのためになるよう、行事や活動をその都度再考する。
園内の自然を取り入れた遊びや探求心を育むための活動を工夫しよう	・木の実や花、虫などの物だけでなく、大きく自然現象（風、天気、水など）にも目を向け、子どもの育ちの糧となるよう保育の中に取り組めるよう検討、実施する。
子ども主体の製作活動について考えよう。	・学年毎、引き続き主体的について検討、工夫していく。 ・全体で共有し合い、3年間を通しての見直しも検討していく。

6 学校関係者評価委員会からのコメント

コロナ禍で、大変な面もあったと思われるが、その事をマイナスに捉えて留まるのではなく、活動自体を見直すことや、より今の子ども達のために重要なことは何かを教職員全体で話し合い、不足部分を向上させてほしい。また、よく話し合い、対応できている点も、それに甘んじることなく、様々な視点から更なる研鑽を積むことに期待する。

上記、学校評価の報告を受けた事を証明します。

学校法人 大石学園
静岡聖光幼稚園
理事長 大石和正